

有栖川公園の視覚領域の境界をまとめると以下ようになる。

場所	視覚領域の類型	江戸期の土地利用	視覚領域の境界
1	a. 太い線分	尾根道	街路パターンの変化
2	d. 短い線分の反復	武家屋敷の一部	規則性なし
3	c. 長い線分の反復	武家屋敷	街路パターンの変化
4	a. 太い線分	参道	なし
5	e. 長短の線分の反復	武家地	街路パターンの切り替わり（地形）

fig. 4. 5. 27
有栖川公園の
視覚領域の境界一覧

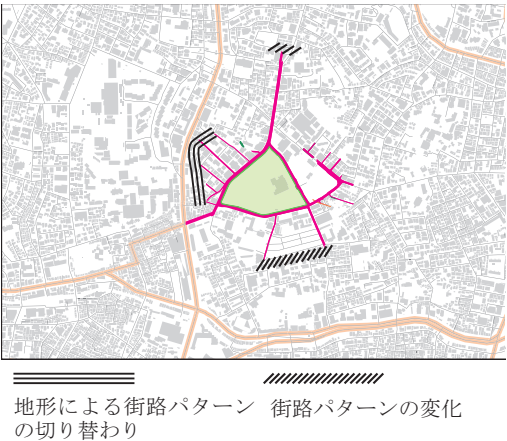
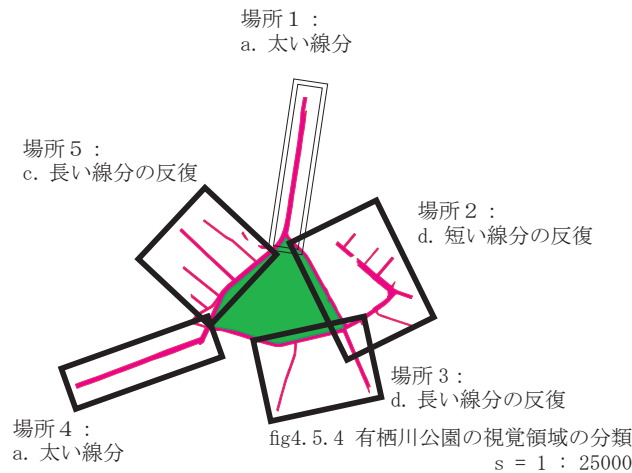


fig. 4. 5. 28
視覚領域と境界
1 : 30000

江戸期は、武家屋敷と寺社によって陣取りのように場所が占められていた。尾根道や参道のような地域の骨格となる道に対して視覚領域が広がっている。また武家屋敷が宅地に分割されるときにできる道が、尾根道に直角にとられるので公園に向かう道ができています。

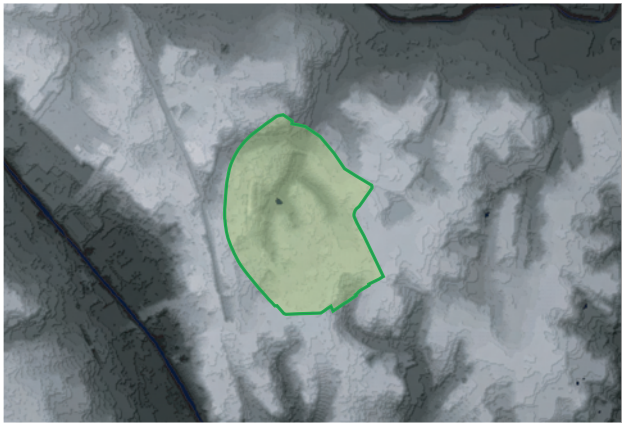


fig4.6.1 自然教育園と地形
1 : 25000



4.6 自然教育園

■地形との関係

谷戸を内部に持ち、北画に向かって開いているところが低地となっている。

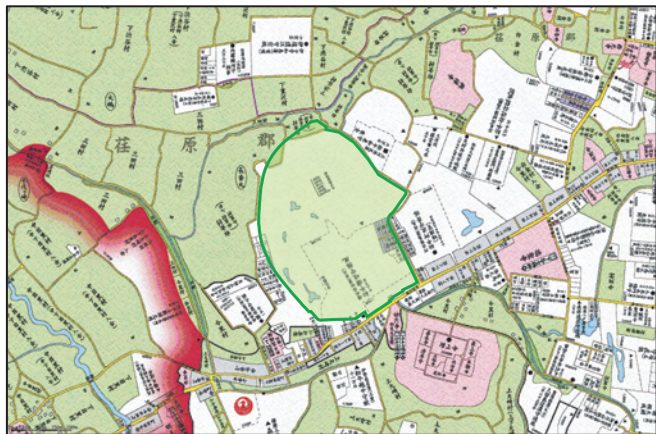


fig4.6.2 江戸時代の自然教育園周辺
1 : 25000



■江戸時代の自然教育園周辺

自然教育園となる場所は、高松藩主松平頼重の下屋敷であり、現在とほぼ同じ形をしている。東側は大規模な武家屋敷が面している。南側は街道沿いに町屋が並んでいる。

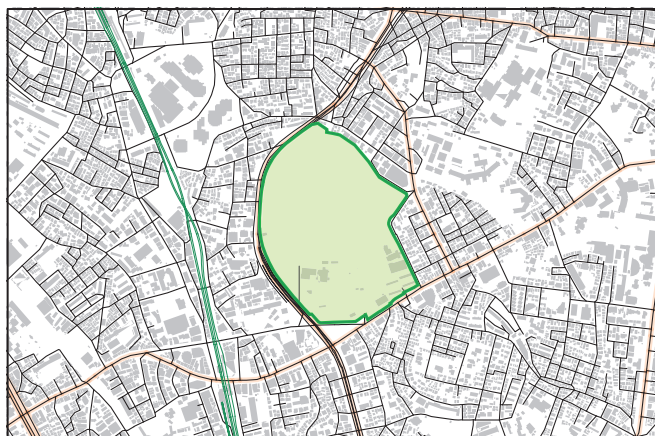


fig4.6.3 現在の自然教育園周辺

1 : 25000



■現在の自然教育園周辺

昭和 24 年（1949 年）に全域が天然記念物および史跡に指定されると同時に、一般に公開されるようになった。

西半分が高速道路が接するようになり、東半分も武家屋敷であったのが宅地として分割され開発された。また外苑西通りが幹線道路として公園の近くに作られている。南側は江戸期の街道が拡幅され幹線道路となっている。

場所 1 :

a. 太い線分

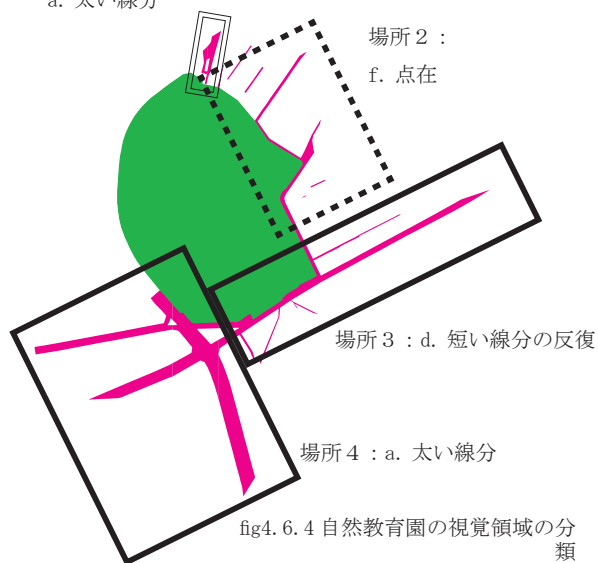


fig4. 6. 4 自然教育園の視覚領域の分類

s = 1 : 25000



fig4. 6. 5
江戸期と視覚領域
s = 1 : 10000

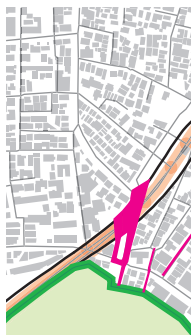


fig4. 6. 6
現在と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 6. 7
公園に向かう道路からの緑の見える



fig4. 6. 8
小公園に面した
カフェ

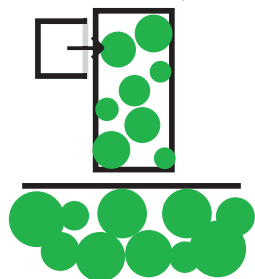


fig4. 6. 9
公園に隣接する小公園とカフェ

■視覚領域の類型

自然教育園の視覚領域は、右図のように分けられる。

場所 1 : a. 太い線分

場所 2 : f. 点在

場所 3 : d. 短い線分の反復

場所 4 : a. 太い線分

○場所 1 : a. 太い線分

分析 A

高速道路の高架

公園に向かって幅員の広い道路がある。

分析 B

公園 : 高低さ、石垣

周辺 : 小公園、カフェなど商業分布

公園に道路が突き当たる場所は児童公園になっており、そこに面してカフェがある。



fig4. 6. 10
江戸期と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 6. 11
現在と視覚領域
s = 1 : 10000



○場所 2 : f. 点在

分析 A

境界なし

視覚領域の分布に規則性はない。

分析 B

公園：塀

周辺：住宅の前のあふれ出し、駐車

幹線道路（外苑西通り）沿いに、ショップが多く分布しているが、公園の近くにはほとんどなく、駐車が多い。奥まった空間となっている。低地は密集市街地、高台は高級住宅地と住み分けがなされている。



fig4. 6. 12
公園に向かう道路からの
緑の見え



fig4. 6. 13
公園に面した道路での駐車

- カフェ
- その他の飲食業
- その他のサービス業

fig4. 6. 14 用途分布
s = 1 : 15000

○場所 3 : d. 短い線分の反復

分析 A

地形変化による街路パターンの変化

江戸期の街路を踏襲している。道が微妙に折れ曲がることで、視覚領域が途切れている。

分析 B

公園：フェンス

周辺：幹線道路

公園は幹線道路が接しており、空間の反復性はない。

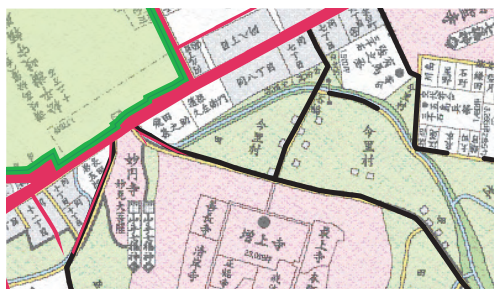


fig4. 6. 15 江戸期と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 6. 16 現在と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 6. 18 公園に向かう道路
からの緑の見え



fig4. 6. 19
公園に面した道路

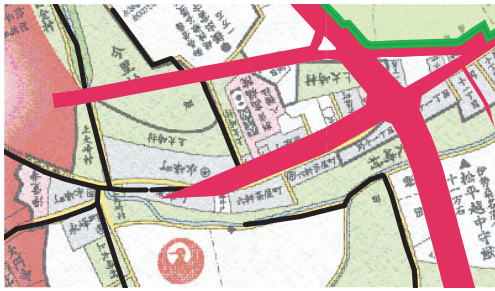


fig4. 6. 20 江戸期と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 6. 21 現在と視覚領域
s = 1 : 10000



fig4. 6. 22
公園に向かう道からの
緑の見え



fig4. 6. 23
公園に面した道路

○場所4：a. 太い線分

分析A

境界なし

幹線道路が公園に沿うように走る。高速道路の高架が見えを邪魔してはいるが、樹木が大きいため遠くからでも見える。

分析B

公園：入り口

周辺：幹線道路、高速道路の高架

幹線道路に対して正面玄関を設けているが、周囲と繋ぐための特別な空間はない。